第 3 回 不登校保護者の会 交流会・意見交換会 報告レポート

日時：10 月 5 日（月）18:30〜19:30　　場所：第一学院高等学校博多キャンパス



参加対象：各不登校保護者の会、フリースクール・学習支援団体、関係機関・専門家

1. 参加団体・出席者一覧（全 11 団体）

【団体名】発達障がい親の会 MIRAI / 不登校のおやのかい すまいる Flower【団体名】香椎東不登校・行き渋り等親の会【団体名】ひだまりの会【団体名】ステップアップスクール当仁【団体名】ぼちぼちの会【団体名】親子かふぇ◯△□【団体名】はこざき自由学舎 えすぺらんさ【団体名】ツナグミライ【団体名】ハートフル ACE

・ご協力・助言：木村 素也 先生

・事務局：不登校保護者の会 交流会実行委員：河野　有美

2. 議題・協議内容

(1) 新規相談者の心理的ハードルと周知方法の検討

・現状と課題の報告：新しく悩みを抱えた保護者から「不登校保護者の会や相談の場に参加すること自体、心理的なハードルが高く感じる」という声が寄せられている現状が共有された。

・議論のポイント：「今まさに悩んでいる保護者が、過度な心理的負担を感じずに最初の一歩を踏み出せるようにするには、どのような案内・アプローチを行うべきか」について意見交換を行った。

(2) 学校での周知の難しさと地域・個別の連携策（大野城市からの相談事例を軸に）

・大野城市からの相談内容（発達障がい親の会 MIRAI / 不登校のおやのかい すまいる Flower）：

「教育委員会の後援を取得したイベントや交流会の案内であっても、中学校等に直接持参して生徒や保護者に配布・案内してもらうことが困難（断られるケースがある）」という実務上の課題が提起された。

【課題解決に向けた具体的な対策案】

1. 地域リソース（民生委員・公民館等）の巻き込み

・学校経由の公式ルートだけに頼らず、民生委員や公民館、地域の福祉窓口・自治会など地域社会を巻き込んだ周知ネットワークを構築する。

・公民館での掲示や地域イベントとの連携を通して、保護者の日常の生活圏内で自然に情報に触れられる環境を整える。

2. 関係性の深い教職員（親しい先生）の個人のつながりの活用

・学校全体での一括配布が難しい場合でも、日頃から理解や関わりのある「親しい先生」や学年主任・スクールカウンセラー等の個人ネットワークを通じ、真に支援を必要としている保護者へピンポイントで手渡してもらうアプローチを併用する。

(3) 就労支援機関・ワークダイバーシティの活用

・就労移行支援・定着支援（ハートフル ACE）

最長 2 年間の就労移行支援（PC・軽作業・ビジネスマナー・SST・生活リズム構築等）と最長 3 年間の定着支援（合計最長 5 年間）により一般就労・障害者雇用を伴走サポートする。利用料は所得に応じるが学生は無料枠の適用がある。博多・天神エリアでは 24 時間対応型の事業所も登場しており、法定雇用率改定に伴い地場中小企業やスーパー・飲食店などへ受け入れ先が拡大している。

・ワークダイバーシティ（多様な就労支援）：

生きづらさや働きづらさを抱える当事者（15 歳以上〜）に対し、障害の有無や従来の枠組みにとらわれず、本人のペースや多様な働き方を認めて地域社会全体で包括的にサポートしていく取り組み・考え方について共有された。

3. 今後のまとめ・方針

・学校の公式ルートを通した広報だけでなく、「地域の民生委員・公民館」などの地域連携と「信頼できる教職員との個別ネットワーク」の双方を活用し、多角的な情報共有ルートを確保していく。

・新規相談者が参加しやすいよう、案内文の表現や雰囲気づくりに工夫を行い、ハードルを下げる取組を各会で継続・共有していく。

・15 歳以降の中学卒業後・高校年代の進路や将来を見据え、就労移行支援、ワークダイバーシティ推進機関等との早期連携を進めていく。